

政務活動費 活動実績報告書

件名	宮崎県綾町、小林市
使途	○1 調査研究費 2 研修費 3 要請・陳情活動費
金額	別途提出
期日	令和 8年 2月5日(木)～令和 8年 2月6日(金)
場所	宮崎県綾町、宮崎県小林市
目的	<p>① 綾町 本市にて有機農業の推進および循環型農業の可能性を検討するにあたり、先進的に取り組んでいる自治体の事例を学び、今後の政策立案に活かすことを目的とする</p> <p>② 小林市 小林市は、自治体主導による独自性の高いシティプロモーション施策を展開し、全国的な認知向上や移住定住促進に一定の成果を上げている。 本視察では、同市の取組内容、企画立案の背景、運用体制、外部連携の在り方等を調査し、本市における効果的な情報発信及び地域ブランド形成の参考とすることを目的とした。</p>
参加者	会派：政策ミライ5名
綾町	<p>綾町では長年にわたり有機農業を推進しており、単なる農業技術ではなく「町の方針」として位置付けられている。</p> <ul style="list-style-type: none">・有機農業の普及・定着・生産者の育成・地域全体での合意形成 <p>が段階的に進められている。</p> <p>1、独自認証制度の導入 綾町では有機JASとは別に、町独自の基準による認証制度を設けている。 金・銀・銅のランク分け 土づくり年数や農薬使用状況などを評価 消費者に分かりやすい形で表示 これにより、生産者の多様な取り組みを可視化し、販売促進につなげている。</p>

	<p>2、流通・販売促進 町内の直売所や物産館において認証ラベルの表示、有機・減農薬の見える化を行い、消費者に選ばれる仕組みを構築している。</p> <p>3、予算規模 議事録等によると、オーガニックビレッジ関連の取り組みとして年間約 570 万円程度（令和 4 年時点）の予算が計上されている。</p> <p>4、視察を通じた所感 綾町の取り組みは、単に有機農業を推進するだけでなく、行政としての明確な意思表示や独自認証による見える化、流通まで含めた一体的な仕組みが特徴的であった。 特に、有機 JAS に限定せず、段階的な評価基準を設けている点は、生産者の参入障壁を下げるとともに、地域全体の底上げにつながる有効な手法であると感じた。</p> <p>5、八女市への示唆 本市においても既に有機農業に取り組む個人や団体の存在、予算措置の開始、輸出や付加価値向上の動きといった土台は整いつつある。今後は既存の取り組みの把握と連携、独自認証等による見える化、モデル地区での実証的取り組みを段階的に進めることで、八女市としての特色ある農業政策につながる可能性がある。</p>
<p>小林市</p>	<p>小林市においては、従来の行政広報の枠を超えた、戦略的かつ一貫性のあるシティプロモーションが実施されている。</p> <p>主な特徴は以下のとおりである。</p> <p>(1) 明確なコンセプト設定 地域の特性を踏まえた明確なコンセプトを設定し、すべての発信において統一されたメッセージが貫かれている。</p> <p>(2) 動画・SNS 等を活用した情報発信 インパクトのある動画コンテンツや SNS を活用し、従来の行政広報とは異なる手法で全国的な注目を集めている。</p> <p>(3) 行政主導による企画力 外部委託に依存するのではなく、職員自らが企画段階から関与することで、地域の実情に即した発信が行われている。</p> <p>(4) 外部人材との連携 専門的知見を有する民間事業者やクリエイターと連携し、質の高いコンテンツ制作を実現している。</p> <p>(5) 効果検証の意識 再生回数や反響だけでなく、移住相談件数や来訪者数など、具体的な指標をもとに効果検証を行っている。</p> <p>小林市の取組からは、シティプロモーションにおいては単なる情報発信ではなく、明確な戦略と一貫性のあるストーリー設計が重要であることが示唆された。 また、行政が主体的に関与しつつも、外部の専門人材と適切に連携することで、限られた資源の中でも効果的な発信が可能であると考えられる。</p>

	<p>一方で、継続的な取組とするためには、庁内体制の整備や人材育成が不可欠であり、短期的な成果のみにとらわれない視点が求められる。</p>
--	---